

小児 坐薬の使い方 ～その3～

坐薬について

油脂性基剤と水溶性基剤によって作られたものが有ります。

油脂性基剤 ・ ・ 体温により基剤が溶け有効成分が吸収されます。冷所保存。

(成分名ジクロフェナクナトリウム、アセトアミノフェン等の解熱鎮痛剤)

水溶性基剤 ・ ・ 腸管の分泌液により基剤が溶け有効成分が吸収されます。室温保存。

(熱性けいれん用の坐剤、吐き気止めの坐剤など)



2剤以上同時使用時のタイミング

通常、水溶性基剤の坐薬を先に入れて、少なくとも30分以上あけてから油脂性基剤の坐薬を入れます。

熱性けいれん用の坐剤や吐き気止めの坐剤の有効成分は油脂性のため、油脂性基剤と同時に使用すると有効成分が油脂性基剤に取り込まれてしまい、吸収が阻害され血中濃度が上昇しにくくなってしまいます。

わからない場合は薬剤師にご相談ください。